

福島大学大学院教職実践研究科（専門職学位課程）案内

1. 福島大学大学院の基本理念

福島大学は、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故という未曾有の災害を経験した福島に立地する唯一の国立大学として、避難者・被災者に対する多方面にわたる支援、放射能の動態把握、復興計画の策定、農業の再生などに取り組むとともに、その経験や教訓を教育研究に活かしてきました。

震災・原発事故から11年以上が経過しましたが、福島はいまだに復興・再生の途上にあり、さらには、人口急減・超高齢化の中での地方創生、新型コロナウイルス感染症、気候変動などへの対応など、21世紀的課題に直面しています。福島大学大学院は、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」として、コミュニティの再構築、地域文化の継承、再生可能エネルギーへの転換、農林水産業の再生と新産業の創出、新しい時代を主導する人材の育成などによって、福島を復興・再生させ、震災・原発事故をもたらした旧来の社会の構造的転換を図ることを目指しています。

都市型の文化や経済発展を前提とした一元的な価値観から脱し、経済の低成長時代を人間のかつ創造的に生きていくために、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」、すなわち「地域分散型の循環共生社会」を理論化・モデル化し、それを日本中へ、世界中へと発信します。そして、人文・社会・自然の知識・技能を融合しながら専門分野における研究を深め、自然との共生のなかで、一人ひとりが豊かに、希望に満ちて生きていけるライフスタイルを創造し、個人のWell-being（幸福、よきあり方）、社会のWell-beingの実現に貢献していきます。

福島大学大学院は、2023年4月、地域デザイン科学研究科、教職実践研究科、共生システム理工学研究科および食農科学研究科の4研究科に再編します。各研究科は、福島大学大学院としての共通理念のもと、それぞれの専門分野に立脚して、これまでの常識や慣例にとらわれることなく、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力をもって、地域および世界の21世紀的課題に果敢に挑み社会に変革をもたらす、「イノベーション人材（高度専門職業人）」の養成に取り組んでいきます。

2. 教職実践研究科の目的

本研究科では地域課題や教育課題を認識し、新たな教育の探究により、未来を創造する、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力を身につけ、課題に果敢に挑み、その解決に寄与する人材を養成します。地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革を牽引する「教員のミドル・リーダー」の育成を目指します。

3. 教職実践研究科の概要・特徴

本研究科では福島県教育委員会とも連携し、学校現場における課題とその解決に必要な理論を丁寧につなぎ、学校現場での多くの実習を積み重ねていきます。そして、年に2回行うラウンドテーブル（教育実践報告会）をベースとした理論と実践の往還をとおして課題の発展的な解決と実践力の向上を目指します。教職経験や自らの教師像と役割に合わせたコース別カリキュラムが設置されています。

4. 教職高度化専攻・コースの概要

本専攻は、教職経験や自らの教員像と役割に合わせた次の3つのコース、「ミドル・リーダー養成コース」、「授業デザインコース」、「特別支援教育コース」を設置しています。

「ミドル・リーダー養成コース」は現職教員のみを対象とし、授業力や生徒指導力などの自らの教育実践力をもとにマネジメント経験を積み、学期や年間を通しての学年、学校レベルの課題に対応する力を身につけて、チーム学校を牽引し、学年・学校経営課題への対応力を磨きます。

「授業デザインコース」は若手現職教員で様々な実践課題が見え始めた方や、多様な現職教員と交流することを通じて教育実践の課題を総体として理解し、学校教員になりたい学部新卒学生を対象とし、将来的なミドル・リーダーを目指し、基盤となる教育実践力を磨きます。

「特別支援教育コース」は障がいの多様化や個別化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す現職教員、学部新卒学生を対象とし、高度な教育実践力や学校マネジメント力を磨きます。

理想とする教員像と自らの役割を常に問い続け、教育課程を含む学校のマネジメント経験を積みながら教師力を向上させていく教員、すなわち福島県の教育を牽引する「ミドル・リーダー（次のミドル・リーダー、次世代のミドル・リーダーを含む）」を養成します。教育に関する理論と学校現場における教育実践とを往還させる仕組みとして、「学校における実習」においてカンファレンスを、「プロジェクト研究」においてラウンドテーブルを実施し、自らの実践を省察し次の実践へステップアップする力を育成し、学校改革・授業改善に結びつく実践的研究能力を育成します。

5. 教育課程

(1) 授業科目と履修基準

- ① 「大学院基盤科目」(2単位)をおき、今日的課題を総合的に理解すること、そのうえで今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取組みに繋げていく基礎を形成します。
- ② 「共通5領域」(20単位)をおき、教育の理論について学び、学生の実践課題追究の基礎を形成します。さらに「選択科目領域」(10単位)には、学校改革領域、授業改善領域、特別支援に関する理論と実践領域の科目をおき、理論を深化・発展させ実践に活かす礎とします。
- ③ 「学校における実習領域」(10単位)では、インターンシップや先進的な教育実践の視察、研究授業や教員研修の企画運営などの学校支援を通して、実践力を養います。
- ④ 「プロジェクト研究領域」(4単位)では、ラウンドテーブルを設定し、自他の実践内容を相互に批評できる「省察的实践家」としての資質を高め、理論と実践との統合を図ります。

区 分	単 位
大 学 院 基 盤 科 目	2
共 通 5 領 域	20
選 択 領 域	10
学校における実習領域	10
プロジェクト研究領域	4
合 計 単 位	46

(2) 授業科目の概要および担当教員

(ただし授業科目名、授業科目の内容および担当教員の一部を変更することがあります。)

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
イノベーション・リテラシー	本講では、まず福島における震災復興プロセス・結果を多様な視点から振り返ることで、今日的課題を総合的に理解することを目指す。その上で、代表的なイノベーション理論・手法の概要、ならびに先進的なイノベーションの取組み事例を理解することで、今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取組みに繋げていくことを目的としている。	2	教授 岩井 秀樹
教育課程編成実践研究	教科と領域等を結ぶカリキュラム・デザインができる教員を育成する。具体的には、現職教員学生と学部新卒学生に応じて、各学校を通じての教育課程の編成方法および構成要素間の関連の在り方について理解する。また、各学校の児童生徒等の状況や教職員の力量、地域との関係など学校の実情を踏まえ、教育課程全体の編成について多様な計画を試作することができる。さらにそれぞれに予想される効果等の検証や最善の計画の選択を行い、教職員集団をリードしその実施に当たることができる力量を身につける。現職教員学生と学部新卒学生との指導目標の違いを十分配慮しながらも、ワークショップをはじめ多様な教育方法を通じて授業を行う。	2	准教授 鳴川 哲也
特別支援学校における教育課程編成の実践	特別支援学校における教育課程編成について、講義および事例検討を通じた学びにより、理論的理解および実践的理解を目指す科目である。主に特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱)に関する教育課程や、医療的ケア児を含む重度・重複障害に関する教育課程の理解を深める。さらに、小・中学校等における特別支援学級や通級による指導の教育課程の在り方についても理解を深めるなど、「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すための深い省察を行う。	2	特任教授 小檜山宗浩
授業デザインの理論と実際	実践と理論を結びつけることで理解を深める。具体的には、授業実践の記録や文献等に基づく他者との協働的な省察を通して、子どもの学びを省察する視点を形成すると共に、自らの経験等を振り返り授業観や教師観の再構築を行う。これらを通して、Society5.0時代に向けた探究的な学びを創造するための基礎的な考え方を身につける。	2	坂本 篤史 宗形 潤子
教材開発と教育方法の実践と課題	授業デザイン論に基づいた教材開発の考え方と、それを支える教師の専門性に関して、先行事例の検討や文献購読、模擬授業実践と省察等により理解を深める。実習の展開と有機的に関連づけ、他者との協働的な実践と省察を通して子どもの学びを省察する視点をより深めるとともに、自らの経験等を振り返り授業観や教師観、教材観の再構築を行う。これらを通して、Society5.0時代に向けた探究的な学びを創造するための基礎的な考え方を発展させる。	2	鳴川 哲也 坂本 篤史

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
生徒指導の事例研究	生徒指導の意義と原理や子ども理解の必要性、教育課程との関連、学校における生徒指導体制など、生徒指導の基本的捉え方を把握した上で、不登校、いじめ、発達障害などの個別課題についての基本的な視点を押さえる。また、教師による取り組み事例を用いて、問題解決に向けての指導のあり方を検討する中で、児童生徒の生き方を保障する生徒指導のあり方、教師の生徒指導力、児童生徒や家庭との関係修復力を高める示唆を得る。	2	特任教授 宮武 泰
学校カウンセリングの事例研究	学校場面で必要とされるカウンセリングの知識・技術を習得するとともに、さまざまな事例を通じて課題を抽出し、個に応じた適切な支援の方法と学校、家庭、地域、関係諸機関との連携などについて検討する。それらを通じて、学校現場におけるカウンセリングマインドを身につけるとともに、教員としての実践力を高める。カウンセリングは、人間の心理や発達の理論に基づく対人援助活動であり、個人の成長を促進し対人関係の改善や社会的適応性を向上させる。学校教育においては、カウンセリング心理学に基づくアプローチで接することで、幼児児童生徒の人格形成や様々な問題解決に有効であるとされていることから、充実したスクールカウンセリング活動ができる力を育成する。	2	特任教授 片寄 一
特別な支援が必要な生徒に対する学校カウンセリングの実際	特別な支援が必要とされる児童生徒に対する生活指導と学校カウンセリングの実践に基づく事例検討を行う。カウンセリングは、人間の心理や発達の理論に基づく対人援助活動であり、個人の成長を促進し対人関係の改善や社会的適応能力を向上させる。個々の児童生徒の教室での状況や家庭環境、関係機関との連携状況を把握し課題を整理するとともに、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、日常的な指導方法と多角的な支援方法を検討する。また、特別支援学校に在籍する児童生徒について、障害種に応じた生徒指導とカウンセリングマインドに基づいた支援の実際など、障害のある児童生徒への適切な対応方法について理解を深める。	2	
学校・学級づくりの実践研究	現代学校経営論の基礎となった1998年中教審答申の「学校の自律性」以降から現在の「地域と共にある学校」にいたるまでの学校経営・学校づくりの指針を学んだ上で、特徴ある学校づくりの事例をもとに、校長のリーダーシップやミドル・リーダーの役割を明らかにする。また、各学校における学校経営・学校づくりと学級経営・学級づくりの相互関係と関連について、事例をもとに検討し、望ましいあり方について検討する。	2	宮武 泰 大橋 淳子
特別支援学校における学級経営の実践研究	特別支援学校における学級経営について、講義および事例検討を通じた学びにより、理論的理解および実践的理解を目指す科目である。県内の各特別支援学校における実践を踏まえ、その現状と課題について考察を進めていく。さらに、重複障害学級の経営の在り方について理解を深めることで、多様な障害に対応した指導の在り方など、障害の重複化・重度化にも対応した学級経営について深い省察を行う。	2	
特別支援学校における学校経営の実践研究	特別支援学校における学校経営について、講義および事例検討を通じた学びにより、理論的理解および実践的理解を目指す科目である。教職員が職務を遂行するに当たっての教育に関する法令および服務等について体系的に理解し、特別支援学校の教職員として果たすべき任務と責任について詳細に学ぶとともに、ミドル・リーダーとしての資質を高める。さらに、職場環境づくりについて学び、全ての教職員が学校教育活動に強みや適性等を生かすための深い省察を行う。	2	特任教授 小檜山宗浩
学校と地域	授業の前半は、子育て、環境問題、地域福祉など、現代社会の抱える諸課題に取り組む地域住民・保護者等の市民が展開する学習と行動の実際をとらえる。事前に用意した論文や実践記録を素材に、学生相互で議論を行う。学生がそれまでの経験値を交えながら議論を展開させ諸課題について理解を深める。後半では、広く現代の「地域と学校」に関わる諸問題を取り上げ、先駆的実践例を検討し討議を重ね、それらの実践を支えた構造と方法等について探究する。	2	特任教授 中田スウラ
公教育の理念と教育改革	19世紀以降各国において確立してくる公教育についての基本的事項を学ぶ中で、その理念を明らかにし、これからの教育実践を担うにふさわしい教育観を各自が持つことを目的とする。具体的には、日本の公教育制度の確立、戦前の教育、戦後教育改革の理念を確認し、現在の教育改革の動向について学ぶ。アメリカ、イギリス、北欧の事情も紹介する。事前に指定する資料を読了していることを前提に、レクチャー、小グループでの議論、全体の議論を進めていく。	2	教授 谷 雅泰

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
特別支援学校と地域の 実践研究	障害のある子供の自立と社会参加を見据え、子供一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供するための必要な支援等について、実践的事例検討を通して学ぶ科目である。特別支援学校では、地域でのセンター的機能を生かし、幼児児童生徒や教員に対する支援等の充実に努めていることから、特別支援学校と地域との関係について研究を深め、関係機関の連携強化による切れ目のない支援の充実などの今後の在り方についても研究を進めていく。	2	特任教授 小檜山宗浩
福島の学校と教育課題Ⅰ	震災後の福島の教育について、双葉郡とその他の地域の各々について学校が置かれてきた状況を概括的に理解する。担当教員によるレクチャー、受講者による体験の紹介から始めるが、避難を余儀なくされている双葉郡の小中学校等については先生方による講演も予定している。それを受けて、福島の教育課題は何かについて、受講者同士の議論より明らかにしていく。本授業は1単位だが、1、2年生による合同の授業である。各々の立場からのコラボレーションが行われる。	1	特任教授 中田スウラ
福島の学校と教育課題Ⅱ	震災後の福島の教育について、双葉郡とその他の地域の各々について学校が置かれてきた状況を概括的に理解する。担当教員によるレクチャー、受講者による体験の紹介から始めるが、避難を余儀なくされている双葉郡の小中学校等については先生方による講演も予定している。それを受けて、福島の教育課題は何かについて、受講者同士の議論より明らかにしていく。本授業は1単位だが、1、2年生による合同の授業である。Ⅱの受講者は前年度のⅠでの学びをもとに1年生をサポート・リードし、各々の立場からのコラボレーションが行われる。	1	
学校マネジメント論 及び事例研究	「学校・授業・子ども・教師」の観点から、これまでの教育活動について振り返り、地域や保護者、子どもから信頼される学校経営（学級経営）構築のための基礎的事項として、学校組織マネジメントを中心に、危機管理（リスク/クライシスマネジメント）、諸機関との連携による生徒指導、今日的な教育課題等について学ぶ。更に、地域の公立学校の訪問調査研究等も取り入れ、協働による学び合いを中心に授業を展開しその方策を追究する。	2	大橋 淳子 高野 孝男
ミドル・リーダー論と 実際	学校におけるミドル・リーダーとは、未だ多義的ではあるが、「校内の中核的な存在の教員」である。その養成は、教員の大量退職時代を迎えた今、喫緊の課題となっており、学校の抱える多様化・複雑化した課題に、協働的に取り組むことができる組織マネジメント能力をもったミドル・リーダーを育てる必要がある。本講義では、ミドル・リーダーが求められる背景と役割や資質・能力を整理し、実際に調査して改善の指針を得ることを目標とする。	2	
教師の成長と授業研究	これからの時代に求められる授業研究と、それを通じた教師の学びのあり方について、先行事例の検討や文献購読に加え、現場での観察や記録の検討を通して学ぶ。授業研究会への参与観察や参加観察等により、授業をデザインし、実施し、省察し、記録化し、リデザインするサイクルと教師の学習過程の関係について、理論と実践を結びつけることで理解を深めると共に、ミドル・リーダーとしての授業研究会の運営と実施への洞察を深める。	2	准教授 坂本 篤史
世界の教育改革と現在	国際的な教育改革について理解を深め、我が国および世界の教育問題について考察する力の獲得を目指す。先進国を中心とした先駆的な教育改革に加えて、途上国の教育開発について学び、グローバルに物事を考えられる視点を身につける。各国の先駆的な教育改革の事例を取り上げ、我が国の教育のあり方と比較する。教育学的な知見だけではなく、社会学や経済学のアプローチからも考察する。本授業のまとめとして、外国の教育改革を踏まえて我が国の教育問題について考える課題探究を行う。	2	准教授 植田 啓嗣
主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ (言語活動・表現活動)	自己の実践を相互に振り返り、児童・生徒の言語活動および表現に関する事例を整理する。また、現在までの研究成果を合わせて整理することで、その問題点を浮き彫りにする。同時にアクティブ・ラーニングに際しての留意点についても検討を行う。言語活動では、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点からの指導の在り方を、表現活動では、感性や想像力等を豊かに働かせ、自己の心情や考え、イメージをもとに自己表現できるようにする指導の在り方を明らかにすると共にその指導理論と実践方法の修得を目指す。	2	太田 孝 小川 裕 渡部 憲生
主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅱ (課題探求・解決力)	本授業では、自己の実践を相互に振り返り、自己課題を明確にし、課題探求・解決力の価値について理解を深める。その上で、課題探求・解決力育成のための仮説を設定し、その解決のための視点や手立てを構想する。その構想をもとに授業参観・授業実践をし、授業改善の視点や手立ての修正を行い、授業改善に資する。このサイクルを繰り返し、課題探求・解決力の育成を追究する。これらの一連の活動を通して、課題探求・解決力の育成についての考察を深め、授業力を高めていく。	2	鈴木 昭夫 浜島 京子

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅲ (協働的問題解決・自己有用感)	主体的な学びについて協働的問題解決を取り入れ自己有用感を高める授業のこれまでの研究成果に密着してその視点を整理する。その上で、授業過程の構想と実践、分析と考察を行うことを通して、主体的な学びの具現に向けた授業改善に必要な知識や素養を身につける。特に、構想と実践では学校現場の多様なニーズに応じることや理論と実践の統合を図ること、また分析と考察では実践をともに振り返ること、を重視する。授業を通して、今日的な実践上の課題を明らかにし、その課題の解決に向けて、実践の知恵を導いたり実践を発展させたりする経験を積む。	2	森本 明 栞田 男 菅家 礼子
国語科授業デザイン論	国語科の教師に新たに必要とされる知識や技能の習得とあわせ、国語科授業の新たなデザインを行う資質・能力の獲得を図る。その際、アクティブ・ラーニングによる国語科授業の在り方や方法について探究する学習指導要領に示される目標および内容の理解を深めるとともに、優れた授業実践を分析・評価し、さらに、教科の専門的内容に関する最新の学術的動向への理解も踏まえた上で、これから求められる教科内容を構築する力と教材を開発する力を養い、授業実践力を高める。	2	太田 孝 佐藤 敏 高橋 由貴 井實 充 半沢 康 澁澤 尚
社会科授業デザイン論	社会科の学びについて、その誕生から現在までの歴史を振り返ったり、実践を協働で分析したりするなどし、社会科教育の本質をとらえ直すとともに、その背景となる社会科学の内容について強化する。また、主体的な学びを図るために、学習指導要領の目標・内容、指導方法や今日的課題について協働で分析、省察をする。分析、省察をもとに、単元や毎時の学習過程を作成し協働で検証する。それらに基づき社会科授業をデザインする力を高める。	2	栞田 男 初澤 敏生 小野原雅夫 鍵和田 賢 牧田 実 中村 洋介 小松 賢司 野木 勝弘
算数・数学科授業デザイン論	算数・数学の学びについて、これまでの算数・数学教育研究の成果ならびに学校現場における算数・数学授業研究の成果に密着してその視点を整理する。その上で、授業過程の構想と実践、分析と考察を行うことを通して、算数・数学の授業改善に必要な知識や素養を身につける。特に、構想と実践では、学校現場の多様なニーズに応じることや理論と実践の統合を図ることを、また分析と考察では、実践をともに振り返ることを、重視する。授業を通して、今日的な実践上の課題を明らかにし、その課題の解決に向けて、実践の知恵を導いたり実践を発展させたりする経験を積む。	2	森本 明 中田 文憲 和田 正樹
理科授業デザイン論	理科授業の改善を図るために、自己課題を見いだすとともに、これから求められる理科における学力や資質・能力について理解を深め、望ましい指導方法について構想する。具体的には、理科における今日的課題、現代的科学観、指導内容の系統性等を踏まえ、課題を明確にし、児童・生徒理解、教材研究、指導内容の関連性等から深く研究する。その上で、授業参観等の授業実践をもとに授業改善について考察を行う。その際、PBLの手法を取り入れるとともに、教材研究に当たっては専門的な知見やICT等の活用を踏まえる。	2	鈴木 昭夫 平中 宏典 水澤 玲子
音楽科授業デザイン論	自己の実践を相互に振り返り、学校における音楽科教育の意義を考究し、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力について整理するとともに、現在までの研究成果や事例等を整理し、現状と課題を明らかにする。また、「資質・能力の三つの柱」の視点から音楽科の資質・能力を整理し、それを育成するための授業理論と方法を検討する。同時に、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた資質・能力の育成について検討し、教科横断的な視点も含むカリキュラム・マネジメントの考え方と方法、教科の特性を活かした授業の在り方について理解を深めると共にその指導理論と実践方法の修得を目指す。	2	小川 裕 杉田 政夫 中畑 淳 今尾 滋 横島 浩
図画工作・美術科授業デザイン論	児童・生徒の豊かな造形表現および鑑賞の能力を育てるために、発達段階に即したカリキュラムの組み立て方や、生活に関連した教材や指導法の在り方を探究する。その際、美術教育における学力の三要素に関する評価のあり方について考えを深めていく。さらに、他教科や行事等の関連を重視し、学校における芸術活動の総合的な展開について追求する。また、図工・美術科における「個別最適な学び」「協働的な学び」について理解を深めていく。	2	新井 浩 渡邊 晃一 加藤奈保子 渡部 憲生
家庭科授業デザイン論	児童・生徒が家庭生活への関心を高め、問題解決的に生活改善をはかる授業のあり方について実践を通して検討する。そのために、家庭科の基盤となる専門科学(生活経営学、被服学、調理学)や家庭科教育の今日的課題等を学び、授業実践例(ICTの活用含む)を分析したり、自身の実践結果を省察する。これらを通して、題材での児童・生徒の学びを意識した授業デザインと教材の工夫について考察し、家庭科授業実践の視点や方法を身につける。	2	浜島 京子 角間 陽子 千葉 桂子 中村 恵子

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
体育科授業デザイン論	体育科教育，身体や運動文化に関する新たな理論・知見をもとに実践記録の分析および検討を通して，児童生徒の主体的な学びの場としての授業を探究する。また，受講者自身の実践力向上のための課題とその解決策を見出す。	2	菅家 礼子 松本 健太 小川 宏 安田 俊広 本嶋 良恵 杉浦 弘一 蓮沼 哲哉 竹田 隆一
英語科授業デザイン論	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする主体的な英語学習者の育成を目指した英語授業の実践を探究する。第二言語習得，英語の言語構造，そして英語圏を中心とした外国文学および文化的コードといった英語授業に関わる理論を学び，それぞれの理論に基づいて授業実践を考察することにより，自身の授業実践に対する問題意識を建設的に喚起しつつ，多角的視点で洗練された教育実践を自律的に研究する力を身につける。	2	佐久間康之 高木 修一 真歩仁しょうん 朝賀 俊彦 川田 潤 高田 英和 佐藤 元樹
道徳科授業デザイン論	考え，議論し，主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科授業を実践するためには，道徳科の本質にふさわしいビジョンをもち，「質の高い」授業モデルを構築し，ねらい・発問・評価に関するデザインを作り上げた上で，新たな授業を現実化することが必要である。本授業では，学習指導要領の基本的構造，質の高い授業方法とその実際を講義した上で，受講者の実践事例をもとに再検討し，道徳科授業改善の方向性を検討する。	2	特任教授 宮武 泰
生活科・総合的な学習の時間に関する授業デザイン論	生活科や総合的な学習（探究）の時間を実践する上での課題を踏まえ，探究的な学びにより汎用的能力を身につける生活科，総合的な学習（探究）の時間の存在意義を設立趣旨や先行実践の検討，自己実践の省察，実際の単元・授業の分析等から協働的に学ぶ。また，子どもが主体の学び，各教科等と関連づけられ，地域の特色を生かすカリキュラム開発，さらに，それらのためにカリキュラム・マネジメントを行う力の育成を図る。	2	宗形 潤子 鈴木 昭夫
ICTを活用した授業デザインと実際	現在進展しつつある学校DXやEduTechを念頭におき，学校におけるICT活用を理論的に捉えるとともに，蓄積されつつある効果的な活用事例を参考にしながら，日々の実践に活かしていくためのカリキュラムと授業デザインについて省察を交え検討を行う。また，教材研究，授業，評価など学校運営の様々な場面において求められるICT活用の高度化に対応するため，校内における環境整備と体制づくりのあり方についても事例を交えながら検討する。	2	准教授 平中 宏典
教育実践研究のためのデータ処理論	量的な観点から教育実践研究を行う際の研究法の基礎を学ぶ。まず調査法と実験法，それらの検証方法，結果の妥当性と信頼性などについて理解する。また平均値の比較をはじめとしたデータ処理および心理統計の理論と技法を修得する。その上で先行研究をもとにして，研究計画の立案から調査の実施と分析および考察，さらに知見の発表について模擬的に行う。理論と実証的観点から教育実践を省察する力を身につけた教師の養成を目指す。	2	
インクルーシブ理念と障害理解教育論	インクルーシブ理念をもとに，通常学級における障害の捉え方，特別支援教育の現状，および障害理解教育について学ぶ。まず通常学級における特別支援教育の現状と課題について概観する。また障害児・者に対する差別の形成と解消について，心理学および社会学の観点から理論的考察を行う。その上で障害理解教育に関する指導案の作成，模擬授業と議論を行い，学校や社会における障害理解の促進の重要性を理解した教師の養成を目指す。	2	准教授 高橋 純一
知的・発達障害教育特論	知的障害および発達障害に関する理論と実践について学ぶ。まず感覚・知覚，注意，記憶，感情・言語，心的イメージ，運動の各観点から，知的障害と発達障害を対象とした感覚・知覚・認知特性の基礎を理解する。また幼児期から青年期までの各段階における知的障害と発達障害の発達特性について学ぶ。その上で事例検討を通じた実態把握の方法と解釈，および支援方法について考察する。理論に根ざした実践力のある教師の養成を目指す。	2	
障害児に対する実践的指導方法の事例研究	障害のある子どもの障害特性を理解し，生活場面や授業場面における様々な困難や課題を明らかにするとともに，個別性に基づいた教育的関わりを探り，障害のある児童生徒への実践的指導方法について事例検討や授業研究を通して理解を深める。また，特別支援学校で学ぶ「知的障害」，「肢体不自由」，「病弱児」の事例を取り上げ，各教科等の指導および自立活動の指導の現状と課題を把握するとともに，「個別の指導計画」の作成を通して，障害による生活上又は学習上の課題を改善克服するための具体的な指導内容や指導方法について検討する。	2	特任教授 片寄 一

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
障害児に対する実践的指導方法の実践	知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害など、学部新卒学生の教育実習や現職教員学生の教育実践の経験をとおり、特別支援学校における障害のある子どもの発達にかかわる観点を中心にどのような教育課題があったか話し合ったり、障害児に対する指導法の実践について学んだりする。個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成、教材開発、校内委員会などについて実践的な支援方法の習得を目指す。また、子供と子供を取り巻く学校、家庭を中心とした教育課程について話し合い、各自の研究課題との関連や連携協力校での実習との関連から考察していく。	2	教授 鶴巻 正子
応用行動分析学からみた知的障害教育の事例と実践	特別支援学校において知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害との重複など多様な実態の児童生徒を理解し、それぞれの児童生徒の教育的ニーズに応じた実践的指導方法を理論的な観点から学ぶ。具体的には応用行動分析学の「機能分析」の考え方に基づき、子供と子供を取り巻く環境との相互関係の視点から、児童生徒が示すさまざまな行動問題に焦点をあて、児童生徒の行動理解と実際の指導方法について検討していく。特別支援学校の学校における実習にいかせるよう実践的に学び、省察することを目指す。	2	
自立活動の事例と実践	主に自立活動の歴史的変遷や授業内容、教師の専門性の向上、他職種との協働の必要性など、障害種に応じた効果的な自立活動の実践について授業分析等を通して学ぶ科目である。さらに、「個別の指導計画」の策定の手順や活用について、講義および事例検討を通じた深い省察を行う。また、知的障害を伴う重度・重複障害児に対する自立活動についても理解することで、障害の重複化・多様化に対応できるより質の高い授業づくりについて研究を進めていく。	2	特任教授 小檜山宗浩
病弱児教育の事例と実践	学齢期における子どもの病気には様々な病態があり、入院治療や長期間の療養を余儀なくされることから教育活動に様々な制限を受けることが多い。病弱児の教育は特別支援学校、特別支援学級、通級、院内学級、自宅等様々な場所で行われるが、医療の進歩による入院期間の短縮や通院による治療の拡大、精神疾患のある子どもへの対応など、病弱教育を取り巻く現状は大きく変化している。また、情緒の安定や意欲の向上は病状の回復にも影響するといわれることから、本人や家族の精神的なサポートも非常に大切である。病弱児教育における様々な事例と実践を通して、これらの現状や課題について整理するとともに、幼児児童生徒の学習を保証し、学ぶ意欲を継続させるための取り組みを検討する。	2	特任教授 片寄 一
長期インターンシップⅠ	本授業は、学部新卒学生用である。大学教員や附属校等教員の指導、現職教員学生の支援を得ながら、教科指導・授業づくりだけでなく、生徒指導・生活指導、学級経営・学級づくりをはじめとする教員の仕事の総体を1年間にわたって経験し、そこで直面する課題に取り組み、省察（リフレクション）し記録する、基盤となる力を身につける。その上で、4～5月に学部新卒学生それぞれが配属される実習校との綿密な事前打合せを行い、実習の見通しをもつことができるようにする。	4	関係全教員
長期インターンシップⅡ	本授業は、学部新卒学生用である。長期インターンシップⅠで身につけた教科指導・授業づくりだけでなく、生徒指導・生活指導、学級経営・学級づくりをはじめとする教員の仕事の総体を1年間にわたって経験し、そこで直面する課題に取り組み、省察（リフレクション）し記録する、基盤となる力をもとに、学部新卒学生それぞれが実習校において実践し、週間カンファレンスと月1回の合同カンファレンスを通して、実践における事象の理論的理解を深め、「学校における実習」から「プロジェクト研究」へと学部新卒学生自身の実践課題を自覚することができるようにする。	6	関係全教員
教職専門実習Ⅰ	本授業は、若手現職教員学生用であり、連携協力校などの先進的な授業実践、児童生徒支援活動を参観し、授業や児童生徒支援改革の見通しを持つ。カンファレンス等を通して参観事例について学生間あるいは大学教員等と意見交換すると共に、自分自身の教育活動を振り返る。	2	関係全教員
教職専門実習Ⅱ	本授業は、ミドル・リーダー用であり、学校課題に対応するためのマネジメント力を育成するために、教育委員会・教育センター・連携協力校を訪問したり、学校における現職教育の企画運営に参加したりする。また、教育委員会や連携協力校等の主任クラスの役割（教務主任、研修主任、生徒指導主事等）をシャドーイングを通じて実地に学ぶ。	3	関係全教員
学校支援実習Ⅰ	本授業は、若手現職教員学生用であり、連携協力校において、学部新卒学生のメンターとして定期的継続的にカンファレンス等を実施すると共に、チーム学校の一員として授業や行事等の支援を行う。支援した教育実践については、ラウンドテーブルでの実践報告を視野に入れて記録をまとめ報告する。	2	関係全教員

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
学校支援実習Ⅱ	本授業は、ミドル・リーダー用であり、チーム学校を支えるために、若手現職教員学生や学部新卒学生、講師等に指導・助言する。チーム学校の一員として、授業や学校行事等に参画する。支援した教育実践については、ラウンドテーブルでの実践報告を視野に入れて記録をまとめ報告する。	3	関係全教員
教育実践高度化実習	本授業は、若手現職教員学生用であり、拠点校の教員とT・T等を組み、教科指導・授業づくりと研究・提案授業、学級経営・学級づくり、不登校・特別支援等の児童生徒への対応などの各自の研究課題に即して実習を展開する。研究課題に応じて分散型、集中型で行う。	6	関係全教員
学校課題対応実習	本授業は、ミドル・リーダー用であり、各自の研究課題に即して、当該校の協働実践研究・校内研究に研究協力者として関わる。その学校で行われる研究協力者会議（仮称）や公開研究会に参加し、研究協議や指導助言を行ったり、あるいは教員研修等を企画運営したりする。	4	関係全教員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅰ	本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年前期に配置し、研究課題を明確にする。	1	関係全教員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅱ	本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年後期に配置し、連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。	1	関係全教員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅲ	本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、ディスカッション等を通して省察する。	1	関係全教員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅳ	実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学生自身の研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。	1	関係全教員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅰ	本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年前期に配置し、学校課題に対応した研究課題を明確にする。	1	関係全教員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅱ	本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年後期に配置し、連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。	1	関係全教員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅲ	本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、ディスカッション等を通して省察する。	1	関係全教員

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
学校課題対応 プロジェクト研究Ⅳ	本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目および選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、カンファレンスを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。	1	関係全教員
特別支援教育実践 プロジェクト研究Ⅰ	実習（学校実習あるいは長期インターンシップ）における「実践」と、共通科目および選択科目（障害児に対する実践的指導方法の事例研究）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅰは1年前期に配置し、各自の研究課題を明確にする。	1	関係全教員
特別支援教育実践 プロジェクト研究Ⅱ	実習（学校実習あるいは長期インターンシップ）における「実践」と、共通科目および選択科目（障害児に対する実践的指導方法の事例研究）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅱは1年後期に配置し、連携協力校での状況を分析しながら課題解決法を探究する。	1	関係全教員
特別支援教育実践 プロジェクト研究Ⅲ	実習（学校実習あるいは長期インターンシップ）における「実践」と、共通科目および選択科目（障害児に対する実践的指導方法の事例研究）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅲは2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、カンファレンス等を通して省察する。	1	関係全教員
特別支援教育実践 プロジェクト研究Ⅳ	実習（学校実習あるいは長期インターンシップ）における「実践」と、共通科目および選択科目（障害児に対する実践的指導方法の事例研究）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅳは2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。2年間の実践を実践報告書にまとめ、ラウンドテーブルで報告する。	1	関係全教員

6. 履修方法および履修指導

(1) 履修の方法

教職高度化専攻の学生は、「ミドル・リーダー養成コース」「授業デザインコース」「特別支援教育コース」のいずれかのコースに沿った履修をします。

① ミドル・リーダー養成コース

必修の共通5領域20単位の他、選択領域では学校改革領域の授業科目と授業改善領域の中の「主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ～Ⅲ」の中から10単位を選択します。このうち、学校改革領域の「学校マネジメント論及び事例研究」は必修となります。学校における実習領域においては「教職専門実習Ⅱ」「学校支援実習Ⅱ」「学校課題対応実習」を、プロジェクト研究領域は「学校課題対応プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」を履修します。

② 授業デザインコース

必修の共通5領域20単位の他、選択領域では授業改善領域の科目から10単位を選択します。現職教員学生はこれに加えて学校改革領域の「教師の成長と授業研究」「世界の教育改革と現在」も選択できます。学校における実習領域は、学部新卒学生は「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を、現職教員学生は「教職専門実習Ⅰ」「学校支援実習Ⅰ」「教育実践高度化実習」を履修します。プロジェクト研究領域は「教育実践高度化プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」を履修します。

③ 特別支援教育コース

必修の共通5領域20単位の他、選択領域では特別支援に関する理論と実践領域及び授業改善領域から10単位を選択します。現職教員学生はこれに加えて学校改革領域の授業科目も選択できます。学校における実習領域は、学部新卒学生は「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を、現職教員学生は「教職専門実習Ⅰ・Ⅱ」「学校支援実習Ⅰ・Ⅱ」「教育実践高度化実習」「学校課題対応実習」を各自のキャリアに応じて履修します。プロジェクト研究領域は「特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」を履修します。

(2) プロジェクト研究・修了研究

教職高度化専攻のプロジェクト研究は、学校における教育活動の進展に寄与しうる内容を有する教育実践報告書とします。

(3) 学位の授与

本研究科に2年以上在学し、履修基準に基づき所定の単位を修得し、かつ必要な教育指導を受けた上で、ラウンドテーブル等での発表実績があり、教育実践報告書の審査に合格した者には教職修士（専門職）の学位が授与されます。

7. 取得資格等

○ 教員免許状

本研究科において取得できる教員免許状は、次の表の通りです。ただし、既に当該学校種・教科の1種免許状を所持している者に限られ、教育職員免許法に定める所要の単位を修得することによって取得することができます。

免許状の種類
幼稚園教諭専修免許状
小学校教諭専修免許状
中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語）
高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，英語，農業，工業，商業，水産，福祉）
養護教諭専修免許状
栄養教諭専修免許状
特別支援学校教諭専修免許状*

(注) 専修免許状を取得するには、免許状授与に該当する科目の指定があります。

*は特別支援教育コースのみ取得可。

8. 授業担当教員の研究概要

氏名	研究概要
准教授 植田 啓嗣	外国の教育の研究をしている。特に、タイをフィールドとして、教育機会均等と多文化共生教育をめぐる課題について探究している。また、国際理解教育や、教育と経済発展に関する課題についても研究している。
特任教授 太田 孝	実践的な国語科指導法の研究。「カリキュラム・マネジメント」の立場から一連の「探究的な学び」の連鎖による学びの定着と活用能力の育成など。また、学校マネジメントの立場からの学校機能と教員研修に関わる研究など。
特任教授 大橋 淳子	授業改善や学校改善、教育臨床についての実践的研究に取り組んでいる。学校改善を目指したスクールリーダー（管理職やミドルリーダーなど）の行動プロセスに視点をあてた研究もすすめている。
特任教授 小川 裕	音楽科教育において、生涯にわたって楽しく音楽にかかわり、音楽を学習する活動そのものを楽しんだり、音楽に感動したりするような授業および音楽活動の創造。
特任教授 片寄 一	肢体不自由児の指導法、重度・重複障害児、医療的ケア児、病弱児の心理・教育的支援について研究・教育を行っている。また、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用、自立活動の指導について研究している。
特任教授 菅家 礼子	児童生徒の学びを出発点とする体育授業の実現を願い、「質の高い身体教育」について研究している。運動の文化性に触れ、自己の身体や動きと向き合いつつ、「个性的世界としての運動」習得に到るような体育授業の実現を目指している。
特任教授 小檜山宗浩	障害のある児童生徒等が、新しい時代に生きるための資質・能力を身につけるための教育の充実や連続性のある多様な学びの場の充実など、特別支援学校等における教育環境の整備の在り方について、実践的研究を行っている。
准教授 坂本 篤史	授業論・教師論。特に授業研究会における教師の学習過程に関する理論的・実証的研究。授業に関する教師の専門性や授業実践を通じた力量形成、そして他者の授業を見て記録し語り合うなかでいかに省察し学んでいくかについて研究している。

氏名	研究概要
特任教授 栞田 惣男	学習指導要領や「令和の日本型学校教育」の主旨を踏まえて、「持続可能な社会の創り手」を育てる社会科の目標・内容・方法等について研究している。
特任教授 鈴木 昭夫	教員養成の在り方を指向しながら、担当する理科授業のカリキュラム設計について実践的に取り組んでいる。学生の授業力の向上を図るとともに、「真正の学び」、「深い学び」を目指す理科授業の在り方を追究している。
特任教授 高野 孝男	地域や保護者、子供から信頼される学校、学級経営構築のために、学校組織マネジメントを中心として、危機管理、今日的な教育課題等について研究している。また、特別活動（特に学級活動）、道徳の授業の充実についても支援している。
准教授 高橋 純一	知覚・認知を基礎とした能力の多様性とその理解に関する研究。知覚・認知の主観的体験における多様性、障害児・者の知覚・認知特性、障害観の形成における心のはたらき、障害児・者への差別、社会や学校における障害理解の促進など。
教授 谷 雅泰	日本における義務教育制度成立期の地域と学校の関係の研究がスタートだった。デンマークなど北欧の若者支援、障害の有無にかかわらない学校と社会との接続関係の研究、震災後の被災地における学校と地域との関係についても研究している。
教授 鶴巻 正子	教育的ニーズのある子供達の漢字やアルファベットなどの書字を妨げる環境要因として教師の支援のあり方を検討するとともに、個人要因として眼球運動や目と手の協応など「見る力」に着目した指導法の開発を目指している。
特任教授 中田スウラ	現代的生涯学習社会の構造を理解し学校・家庭・地域の連携・協働について追究する。学校と地域社会の関係を問い直し、持続可能な地域社会の創造とそれを担う主体的な子ども・市民の成長を支える対話的な教育・学習の展開過程を探究する。
准教授 鳴川 哲也	初等理科教育（主に小学校理科）において育成すべき資質・能力、また、そのような資質・能力を育成するための学習指導法や教材開発についての研究。
特任教授 浜島 京子	家庭科教育を専門としその在り方に関心を有しているが、特に、主体的な生活者育成のためには小学校低学年からの在り方を検討する必要があると考えている。そのため、低・中学年対象の実践も試みながらその可能性を追究している。
准教授 平中 宏典	ICTを活用した授業デザインおよび教材開発に関する研究。特に、ICTを効果的に活用するための単元デザイン、デジタル学習記録の方法と活用、物理空間とサイバー空間をつなぐ教材の開発と検証を学習科学の観点から行う。
特任教授 宮武 泰	道徳授業において、「教材の主人公に自我関与させるための発問」と「物事を多面的・多角的に見て、考えを発展させていくための発問」の整合性を図る発問構成とそれを可能にする教材に具備すべき条件の研究。
教授 宗形 潤子	生活科における砂遊びの教育的効果、保幼小連携カリキュラムの開発に関する研究。（砂遊びの場に共に在ることでの教師の子ども観や指導観の変容も含む）子ども主体の総合的な学習の時間の実践や教員研修について学校現場と連携し研究。
教授 森本 明	算数・数学の授業とカリキュラムの構成に関する研究。学習過程の充実に資する教材の解釈、授業研究の過程と成果に密着した活動と授業のデザイン、授業過程における聞くという行為の役割、算数・数学教育における聴覚特別支援など。